

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を念頭に置き日々のケアにあたっている。毎月のケア会議で検討事項を話し合っている。	職員は1対1で話をすることを大切に、利用者の立場に立ち、また、家族の気持ちになって日々の支援に取り組んでいる。法人理念やホーム独自の理念についてはホール内の壁に掲示し共有と実践に繋げている。職員は理念の持つ意味を良く理解し、日々の支援で利用者が元気に過ごせるよう工夫をしている。家族に対しては入居時に説明すると共に、毎月、利用者一人ひとりの生活記録を届け、ホームでの生活の様子をお知らせしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の共同作業(草取り・防災訓練)に参加している。	開設以来ユニット毎に区費を納め、地域に密着し、開かれたホームとして活動している。新型コロナ禍が続いたことで地域の行事も元の状況に戻っていないが、年5回実施される地域の草取りは行われており職員が参加し地域の人々と交流している。また、10月に行われた地区の防災訓練にも職員が参加し、消火器の使い方等の訓練も受けている。更に、地区の中学生の職場体験の来訪があり、折り紙等を中心に利用者との関わりを持ったという。ボランティアの来訪も現在行われていないが、新型コロナの様子を見ながら市社会福祉協議会のボランティア係と連携して進める意向を持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	安茂里地区事業所ネットワークに参加も現在は活動停止中		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議はホームで実施し、活動内容や介護度、実績などをホーム便りを配り意見交換行っている。	新型コロナ禍が長引き書面での開催が続いていたが、5月8日の5類への移行を受け、9月より対面での会議を再開した。2ヶ月に1回行い、利用者代表、家族代表、区長、民生委員、市高齢者活躍支援課職員、地域包括支援センター職員、ホーム関係者の出席で開催している。コロナ対応、年間行事計画について、利用者状況、事故・ヒヤリハットなどを報告し、意見交換等を行いサービスの向上に役立っている。また、12月のクリスマス会に参加していただき、利用者との交流の機会を持っていたらこうという予定を立てている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、意見や感想を頂いている。	地域包括支援センターとは入居者相談等、様々な事柄について連携を密にしている。市高齢者活躍支援課とは事故・ヒヤリハット報告等、必要に応じ報告をしたり、情報を頂いている。介護認定の更新調査は調査員がホームに来訪し、ホーム長と計画作成担当が対応している。市のあんしん(介護)相談員の来訪についても再開されたら申し込みをしたいという意向を持っている。	

グループホームウエルフェアあもり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に法人研修で虐待や身体拘束の知識を高めている。必ず全員参加。3ヶ月に一度委員会を開催し、日々のケアが虐待や拘束にあたらないか話し合っている。	法人の方針として拘束のない支援に取り組んでいる。玄関は安全確保のため施錠しているが、日々、1対1で関わる時間を大切に穏やかに過ごしていただくようにしている。また、外出願望の強い方については玄関先のポーチに出て、テーブルを囲みコーヒーを飲んだりして気分転換を図っている。更に、ホールや居室にいない時にはトイレや他の居室等をきめ細かく見回り安全確保に繋げている。そうした中、転倒・転落の危険のある方がおり、家族と相談の上、人感センサーを使用している。年1回、法人の接遇研修会と合わせ、3ヶ月に1回開かれる身体拘束適正化委員会で拘束に対する知識を高め、拘束のない支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人研修に必ず全員参加し尊厳が守られているか会議で話合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について学び、必要性を懸念した時には話し合いをし、支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安点や疑問の無いように意見や質問を頂き丁寧に説明し納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話や生活記録にて様子をお伝えしている。ご意見等はケア会議で周知し話し合っている。	家族の面会はコロナ蔓延時には電話と窓越し面会を行っていたが、現在は事前に連絡を頂き、15分を目安に玄関先にて対面での面会を行っている。そうした中、ホームでの生活の様子は毎月発行される「ホーム便り」で家族に知らせるとともに、利用者一人ひとりの様子については担当職員より「生活記録」として細かく報告し、家族の対応についてもホーム長がきめ細かく行い家族より喜ばれている。また、8月にはホーム長交代に伴い家族会を開催した。殆どの家族が出席しお弁当をテイクアウトして居室で利用者と食事を共にしたという。1月には新年会を兼ね家族会を開く予定を立てている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議やケア会議でケアや業務について話し合い検討している。施設長との面談もあり。意見や要望などとも言える機会がある。	月1回、最終週の木曜日午後、ケア会議を含めた職員会議を行っている。ホーム長からの連絡、コロナの感染状況について、行事計画、行事報告、実習生の様子、日々気づいたことなどを話し合い、業務内容の向上に繋げている。また、殆どの職員が出席するが、欠席者には記録を回覧しホーム長が説明している。法人として人事考課制度があり、職員は年間目標を立て自己評価を行い、年2回、ホーム長による個人面談も行われモラールアップに繋げている。更に、年1回ストレスチェックが行われ、法人として職員のメンタルヘルスにも取り組んでいる。	

グループホームウエルフェアあもり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シートや自己評価表を活用している。評価を受け自らが課題を設定することでモチベーションをあげ業務に当れるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人研修は必ず全員が参加できるように調整している。経験の浅い職員には業務内に指導をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のネットワークに参加しているが、コロナの関係もあり、活動しているか不明なところもある。オレンジカフェは再開しているため積極的に参加したい。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員間で共有しサービスを統一している。サービス提供前の聞き取りで不安に思う事や要望を聞き安心した生活を提供できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や面接の際に不安や希望をお聞きしている。家族に協力して頂きながらサービスを提供している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要な支援について家族や本人、主治医、職員から情報を集めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に暮らす仲間として意識してケアしている。生活歴や職歴を活かしながら信頼関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月郵送している生活記録に日々の暮らしの様子を記載したり、面会時や電話にてお知らせしている。日々の様子を載せたホーム便りも毎月郵送している。		

グループホームウエルフェアあもり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人と電話や面会をし関わりの継続ができています。	家族より事前に連絡をいただいている友人やお孫さんの面会があり、玄関先で15分を目安に話をいただいている。また、携帯電話やホームの電話で家族と連絡を取り合っている利用者が数名いる。理美容については1ヶ月に1回、顔馴染みとなった訪問美容師が来訪し、利用者の希望に合わせてカットをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなでレクリエーションや体操をしている。1日の大半をフロアに集まり過ごしている。ユニット合同での活動もある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	季節に沿った行事にお誘いしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らしやすい場所となるよう希望や意見を聞いている。家族の協力が必要な時は協力して頂いている。	平均介護度は1.83という状況で元気な方が多く、殆どの方が意思表示のできる状況である。1対1で話をする時間を大切に、利用者の生活パターンに合わせて自由な生活を送っていただくようにしている。そうした中、日々、気づいた事柄については連絡ノートに纏め情報を共有し、申し送り時に確認すると共にケア会議で検討し利用者の意向に沿えるようにしている。また、気づいたことや利用者の要望については家族にも連絡し共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の情報や本人・家族からの聞き取り職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りにて現状や注意点など検討項目を共有し、話し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の気持ちや家族の要望を踏まえ、ケア会議にて内容を検討している。状態が変化した場合速やかにケアプランを変更している。	職員は1~2名の利用者を担当し、居室管理、誕生会の準備と外食の付き添い、日々のアセスメント等を行っている。月1回、ケア会議で意見を出し合うとともにモニタリングを行い、ケアマネジャーがケアプランを作成している。家族に対してはケアプランを返信用封筒と共に郵送し、電話で希望を伺うようにしている。入居時は暫定で1ヶ月のプランを作成し、様子を見て短期目標を3ヶ月とし、状態が安定している場合は6ヶ月で見直し、状態に変化が見られた時には随時の見直しを行い、一人ひとりに合った支援に繋げている。	

グループホームウエルフェアあもり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	行動や言動、様子を細やかに記録し見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他科受診や買い物サービスに代行サービスがある。歯科・訪問看護が来訪している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	興味のあることや趣味が活かせるようホーム内での活動に工夫している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間体制で適切な医療が受けられている。入所前にかかりつけ医に家族、また職員が付き添っている。主治医からの紹介状で他科受診もしている。	入居時に医療体制について説明している。現在、全利用者がホーム協力医の月2回の往診を受けている。医師の診察は1日1～2名で、殆ど毎日来訪があることから体調に変化が見られた時には追加で診察が受けられるようになっている。合せて看護師も同行するので、利用者の健康管理とともに医師との連携も図られておりオンコール対応も可能となっている。また、調剤薬局の来訪も継続されており、服薬、配薬の指導もいただいている。歯科については必要に応じ協力歯科の往診に対応し、歯科衛生士も必要に応じて来訪し口腔ケアの指導も受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	緊急時以外はホーム長に連絡し指示をおおっている。状態によっては看護師に連絡、相談し主治医の指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	紹介状と情報提供書を提供している。医師からの説明時には同席している。病院連携室と連絡を取り合い退院後の支援についても話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の看取りについては、状態を見ながら家族に説明をしている。今度予想されることや現状をお伝えし家族の意向や思いを確認している。状況に応じて家族、医師、ケアマネ、看護師、ホーム長でカンファレンスを開催している。	重度化、終末期に対する指針があり、利用契約時に説明している。状態が変化し終末期に到った時には家族、医師、看護師、ホーム職員で話し合い、家族の意向を確認の上、医師の指示の下、看取り同意書にサインを頂き、医療行為を必要としない限りにおいて看取り支援に取り組んでいる。この1年以内にも1名の方の看取りを行い、コロナ禍ではあったが家族には居室において最期の時を共に過ごしていただき感謝の言葉を頂いている。また、看取り中は利用者の好きだったゼリー等を口に運び味わっていただいたという。開設以来15名の方を看取り、看取り後は振り返りの機会を設け、職員間の気持ちを一つにして次回に繋げるようにしている。	

グループホームウエルフェアあもり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時は協力病院とホーム長に連絡し連携をとっている。法人研修で緊急時や事故の対応を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網や職員のグループラインを整備している。年2回以上の防災、通報、消火訓練を実施している。その際水防や地震想定での訓練もしている。水防事故時はホーム二階が避難場所にもなっている。	消防署へ届け出の上、年2回防災訓練を実施している。8月には消防署員参加の下、利用者全員が外へ移動しての火災想定での避難訓練を行っている。合わせて水消火器を用いて消火訓練を実施した。10月には火災想定での避難訓練に合わせて通報訓練も行っている。緊急連絡網の確認訓練はスマートフォンを用い、SNSの一斉配信訓練で実施している。また、6ヶ月に1回行われる法人の水防訓練の研修会に参加し、持ち帰り勉強会も行い、防災意識の向上に努めている。備蓄として「インスタントラーメン」「水」「米」「缶詰」「ガスコンロ」等が準備されている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を守り利用者それぞれにあった介護方法や声かけを行っている。法人研修でもプライバシー保護、接遇について学んでいる。	家庭的な雰囲気大切に「のんびり、ゆったり」とした生活を送っていただいている。そうした中、否定的な言葉遣いや命令口調にならないよう特に気配りをしている。また、トイレ介助の際には「ノック」と「ドアの開閉」には心配りをするようにし、ズボンが必要以上に下げすぎないように徹底している。呼び掛けは苗字に「さん」付けで呼び出し、「ちゃん」付けはしないようにしている。更に、入室の際には「ノック」と「失礼します」の声掛けを忘れないよう徹底している。年4回開かれる法人の接遇研修に参加し、プライバシー保護に対する意識を高め支援に当たっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者それぞれが自己決定できるような傾聴方法や声かけを工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者ファーストの考え方で統一し日々の暮らしを支援している。希望などもお聞きしながら生活を提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月訪問美容が来訪し、本人の希望に沿った髪形にしている。衣類については選択して頂いている。		

グループホームウエルフェアあもり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を切る、炒める、盛り付けを一緒に行っている。毎週食レクの実施し料理全般をお手伝いして頂いている。	おかゆの方が若干名、キザミの方が数名おり、そのほかの大半の方が自力で食事が出来る状況である。献立は法人の有料老人ホームの栄養士が立てたものを参考に利用者の希望も取り入れ、差し入れて頂いた季節の野菜、果物等も使いながら職員が15日分の献立を立て調理している。包丁を使える利用者も多くおり、家庭的な雰囲気をお楽しみながら出来ることに参加していただいている。そうした中、「おはぎ」「お好み焼き」「たこ焼き」等のおやつ作りも楽しんでいる。また、週1回は食事レクレーションの日を設け、「サンドイッチ」「焼きそば」「餃子」等を作り味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々にあった食事形態を提供している。体重の変化や食事量、排便の状況に応じて補助食品や水分を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力磨きの後は必要に応じて仕上げ磨きを行っている。その際に口腔内の観察を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンの把握に努め、トイレの誘導を行っている。排泄用品の検討を実施し費用削減の工夫もしている。	殆どの利用者はほぼ自立に近い一部介助という状況で、必要以上に手を出しすぎないようにし自立支援に繋がっている。職員は利用者一人ひとりのパターンを把握し、排泄表も参考に定時の声掛けを行い、また、様子を見ながら早め誘導に心掛けている。排便については4～5日ない場合にコントロールを行い、食事、おやつ、入浴後の水分補給など、1日1,200cc～1,500ccの摂取に取り組みスムーズな排泄に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の体調変化や症状の理解を職員周知している。必要に応じて下剤や整腸剤の処方も検討している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴だが、希望に合わせて回数、時間の自由がある。入浴剤等も使用して、気持ちのよい入浴時間を提供している。	見守りで自立の方が数名、一部介助の方が8割強という状況である。入浴拒否の方はなく、週2回、入浴を行っている。入浴剤を使用し、「ゆず湯」「菖蒲湯」等の季節のお風呂も楽しんでいる。また、入浴後には「スポーツドリンク」等の飲み物を用意し、楽しんでいただいている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ちよくベッドに入って頂ける様に環境整備し寝具の清潔に心掛けています。		

グループホームウエルフェアあもり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情にて薬名、効用、副作用を把握している。誤薬防止のためにダブルチェック、読み上げ内服を実施している。服薬指導や往診で薬の変更があった場合は申し送りノートに記載し周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意料理や嗜好品の支援もしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には戸外で食事やお茶の時間を設けている。季節に合わせた外出も実施している。	外出時、自力歩行の方と車いす使用の方がそれぞれ三分の一強、杖使用の方が若干名、歩行器使用の方が数名という状況である。天気の良い日にはホームの周りを散歩したり、玄関先のポーチでテーブルを囲み外気浴を兼ねてお茶を楽しんだりしている。新型コロナ禍が長引き外出が難しい状況が続いていたが、5類への移行を受け、感染対策を取った上でドラッグストアや100円ショップまで買い物に出掛けたり、秋にはドライブを兼ね市内の公園までお弁当を持って出掛け楽しいひと時を過ごしている。今後、感染状況を見ながら積極的に計画を立て、季節に合わせて外出を行う意向を持っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこずかいを預かり、ホームで管理しているが、自由に使える。またお財布を持っている利用者もあり、家族に了承してもらっている。持参金でノートやペン、お菓子などを購入している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には手紙や電話の支援をしている。携帯電話は自由に使っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感をかんじて頂ける様に壁に飾りを工夫している。清潔に心掛け日常の掃除や消毒を実施している。	玄関前には季節の花々が綺麗に植えられており来訪者を迎えてくれる。玄関ホールには観葉植物が置かれ、最近導入された緊急用の「AED」もセットされている。また、廊下からホールに向けた共用部分には行事の際の写真が数多く飾られ活動の様子を窺うことができる。ホール内も季節に合わせた飾り付けがされており、現在は「ハロウィン」がテーマとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席で話をしたり、ソファで寛ぐ姿が見受けられる。ホーム便りを毎月楽しみにし、見て回っている方もいる。		

グループホームウエルフェアあもり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持参して頂き居心地のよくすごしてもらっている。テレビをみたり自由に過ごしてもらっている。	各居室の入り口ドアには利用者自らの作品や行事の際の写真が飾られ、居室を間違えないよう工夫がされている。居室内は職員の手により綺麗に整理整頓され清潔感が漂っている。持ち込みは自由で、使い慣れた物入れ、衣装ケース、ハンガーラック、テレビ等が置かれ、壁には自分の作品や職員から贈られたお祝いのメッセージカード、家族の写真等が貼られ思い思いの生活を送っていることが垣間見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室がわかるように貼り紙をしている。出来る事や分かることは職員が把握し作業を提供している。		